

特集！陸自第12ヘリコプター隊

～空中機動性を高めた旅団の中核 群馬県榛東村～



第12ヘリコプター隊のUH-60, CH-47

目次

CONTENTS

- 1 特集！陸上自衛隊第12ヘリコプター隊 ～群馬県榛東村～
- 2 日米交流イベント ～東京都昭島市、立川市、武蔵村山市～
- 3 第35回防衛問題セミナー ～埼玉県さいたま市～
- 4 北関東防衛局職員が陸上自衛隊第1空挺団で研修
- 5 第36回防衛問題セミナー開催のお知らせ

2・3月号

特集！陸上自衛隊第12ヘリコプター隊

第12旅団の機動力の源

空中機動性を高めた旅団の航空部隊

陸上自衛隊第12ヘリコプター隊は、平成13年3月の部隊改編により、全国の陸上自衛隊で唯一の「空中機動旅団」として、それまでの第12師団から生まれ変わった第12旅団と同時に新しく編成された部隊です。第12旅団は群馬県榛東村の相馬原駐屯地に司令部を置き、その担任範囲は群馬、栃木、新潟、長野4県にわたります。第12旅団が司令部を置く相馬原駐屯地は北関東という我が国のほぼ中央部に位置し、全国各地への機動的な支援活動に適するという地域特性を有しており、同旅団は有事の際は必要に応じて空中機動力を生かし全国に展開し任務を行います。また、平時においては災害派遣や国際社会の一員として様々な国際貢献活動を行っています。第12ヘリコプター隊は、その高い機動性を生かして旅団に所属する部隊の足になり目になる部隊であり、相馬原駐屯地に主力部隊、栃木県の北宇都宮駐屯地に第1飛行隊を置いています。

第12旅団隷下部隊配置図



第12旅団が司令部を置く相馬原駐屯地 (群馬県榛東村)

第12旅団の活動内容

国際貢献、地域協力、災害派遣など

防衛省は、ゴラン高原の安定を目的とする国連兵力引き離し監視隊（UNDOF）に平成8年から平成25年まで司令部要員と輸送部隊の派遣を行いました。第12ヘリコプター隊が所属する第12旅団は、その第20次への隊員派遣、イラクにおける人道復興支援の第10次復興支援群への隊員派遣、地元で行われるマラソンや国体など各種行事の支援、各種災害への隊員派遣など様々な活動を行っています。

また、第12ヘリコプター隊は、ヘリ隊本部及び本部付隊が小型のOH-6D、第1飛行隊が中型のUH-60JA、第2飛行隊が大型のCH-47J/JAという3種類のヘリコプターを有しており、その優れた機動性を生かして、山林火災への派遣や集中豪雨での人命救助への派遣を数多く行っています。



UNDOFの活動



イラク復興支援活動



OH-6D



UH-60JA



CH-47JA



地域行事における支援活動

第12ヘリコプター隊の活動

機動性・即応性を生かした災害派遣

第12旅団は、有事においては我が国を防衛するという崇高な任務を遂行するとともに、平時においては大規模な災害あるいは山林火災等の発生に際して迅速かつ効果的に対応することを期待され、実際に数多くの災害派遣を行っています。山林火災においては大型輸送ヘリコプターであるCH-47による上空からの放水が有効であり、群馬県桐生市及び栃木県足利市で発生した山林火災等で消火活動を行っています。記憶に新しいところでは、平成26年9月の御嶽山噴火、平成27年9月の関東・東北豪雨での活動等がありますが、御嶽山噴火に伴う災害派遣においては、空気が薄い高度約3千メートルの山頂付近という、救助する側のヘリコプターにとっても危険が伴う高度でのホバリング（静止状態）、さらに火山灰が積もる場所への着陸など、自衛隊でなければ行えない救助活動となりました。また、関東・東北豪雨においては、ヘリコプターの機動力を生かし、茨城県常総市で孤立した住民の救助、栃木県日光市で孤立した住民がいる地域への偵察部隊の空輸を行いました。



御嶽山の噴火に伴う災害派遣
(上、左2枚)



常総市における救助活動（上、右2枚）
群馬県桐生市における山林火災消火（下）



あらゆる場面を想定して様々な訓練を実施

第12ヘリコプター隊は、第12旅団の特性を踏まえ、空中機動をはじめとする旅団隷下部隊との協同訓練を頻繁に実施しています。空中機動訓練は、基本的な搭乗・卸下（人員、荷物の積卸し）等の訓練から、旅団が計画する空中機動指導官養成訓練、諸職種協同統制訓練、旅団演習等の総合訓練まで、東部方面航空隊第4対戦車ヘリコプター隊（千葉県木更津市）等とも協同で実施しています。空中機動指導官養成訓練とは、旅団隷下の部隊に空中機動要領を熟知した要員を配置するために、指導官を養成する訓練で、ヘリコプターの着陸誘導訓練、地面すれすれでホバリングするヘリコプターから飛び降り、周囲を警戒して制圧するヘリボン強襲訓練、上空でホバリングするヘリコプターからロープを伝って地上に降りるリペリング訓練など、あらゆる場面を想定した訓練を行います。

第12ヘリコプター隊は創隊以来の航空無事故記録を継続しており、平成26年7月には1機あたりの無事故飛行2,400時間の達成により賞状を授与されています。また、御嶽山噴火災害派遣の活動等により平成27年10月にフジサンケイグループの主催で行われた「第13回国民の自衛官」表彰式において部隊表彰を受けています。第12ヘリコプター隊は「今後とも感謝と謙虚な気持ちを忘れることなく任務完遂に邁進していく」としています。



第12ヘリコプター隊が他部隊と協同して行う様々な訓練

日米交流イベント ～東京都昭島市ほか～

日米交流音楽会 in 昭島 ～東京都昭島市～

2月20日(土)、KOTORIホール(昭島市民会館)において、北関東防衛局の主催による「日米交流音楽会 in 昭島」が開催され、地域の住民など約750名が来場されました。この音楽会は、米軍横田基地の軍人・軍属及び家族と同基地周辺住民との交流を通じ、相互理解の促進及び良好な日米関係の醸成を図ることを目的として、平成21年から毎年、横田基地周辺の市や町で開催されています。

オープニングアクトとして、横田基地で働く軍人・軍属とその家族及び基地で働く日本人従業員がメンバーとなっている横田サムライ太鼓が演奏。主催者である小柳北関東防衛局長が挨拶で「この日米交流音楽会をきっかけとして、今後の日米間の交流の場の拡大、さらにはお互いの信頼関係の醸成に繋がることを願っています」と述べた後、共催者の北川穰一昭島市長、協賛者の在日米軍横田基地第374空輸航空団副司令官ニール・R・リチャードソン大佐が挨拶しました。

今回の音楽会には、米側から横田サムライ太鼓、横田ダンスカンパニー、米国空軍太平洋音楽隊-アジアのパシフィックトレンズ、日本側から諏訪神社宮澤太鼓(昭島市)、フミダンシングアカデミー(立川市)、東京都立拝島高等学校軽音楽部(昭島市)の6団体が参加し「音楽で伝わる心の交流」をテーマに華やかな演奏やダンスが披露されました。

最後は出演者143名全員により「世界に一つだけの花」が演奏され、来場者も含めた大合唱で感動的なフィナーレとなりました。



日米文化交流会 ～東京都立川市、武蔵村山市～



また、2月1日には立川市立西砂小学校に横田基地内のメンデル小学校の児童及び教師等を、2月5日には武蔵村山市立小中一貫校大南学園第七小学校にメンデル小学校と、同じく横田基地内のウェスト小学校の児童及び教師等を招いて、北関東防衛局の主催により日米文化交流会が開催されました。この文化交流会は横田基地周辺自治体に所在する小学校と同基地内に所在する小学校の児童を対象として、我が国固有の文化等を双方が同時に体験することを通じて交流を行うことで、地域における相互理解を深めるとともに、将来に向けての更なる信頼関係の醸成を目的として行われています。

西砂小学校では、あやとりや羽根つき等の伝承遊び、第七小学校においては、おはじき等の伝承遊び、給食を一緒に食べる食文化交流により、交流を深めました。参加児童からは「日本の文化を体験できて楽しかった」「うまく話せなかったが英語の勉強になった」などの感想が寄せられました。

第35回防衛問題セミナー ～埼玉県さいたま市～

さいたま市では7回目の防衛問題セミナーを開催

3月1日（火）大宮ソニックシティ小ホール（埼玉県さいたま市）において「第35回防衛問題セミナー」が、北関東防衛局の主催及び自衛隊埼玉地方協力本部の後援で開催され、約300名が来場されました。このセミナーは平成19年から毎年開催され、北関東防衛局の所在するさいたま市では7回目の開催となりました。

今回は「我が国の安全保障環境への対応と沖縄基地負担の軽減に向けて！」をテーマに、防衛省本省から、普天間飛行場代替施設建設事業を担当する山本達夫大臣官房審議官、日米両国の防衛協力を担当する大和太郎日米防衛協力課長の2名の講師を迎えて講演が行われました。

始めに、小柳北関東防衛局長から、防衛局の業務や最近の安全保障環境の変化などを紹介し「このセミナーを通じて、我が国を取り巻く安全保障環境や日米両国の対応、沖縄の負担軽減に係る様々な取組について、少しでも理解を深めていただければ幸いです」と挨拶しました。



小柳局長



沖縄の基地負担軽減や新ガイドライン等をテーマに講演



山本審議官



大和日米協力課長



日米防衛協力の新ガイドラインは、防衛省のホームページでご覧になれます。

www.mod.go.jp/j/approach/anpo/shishin/

その後、まず山本審議官から「我が国の安全保障環境への対応と沖縄基地負担の軽減に向けて」と題して、前半では、北朝鮮による核実験の実施やミサイル発射、中国による東シナ海・南シナ海における活発な活動など我が国周辺の安全保障環境の変化とそれに対応するための日米両政府の取組、地理的優位性を有する沖縄に米軍が駐留することは日米同盟の抑止力を構成する重要な要素であること等、また、後半では、その重要性を踏まえた上で、全国の米軍専用施設の74%が所在する沖縄県の基地負担を軽減するために進められている米軍基地の整理・統合・縮小の取組を、普天間飛行場の移設を中心に説明しました。

次に、大和課長から「新たな「日米防衛協力のための指針」（ガイドライン）の策定について」と題して、2015年に18年ぶりに改定された新ガイドラインについて、冷戦時代の1978年に作られたガイドライン、冷戦終結後の1997年に改定されたガイドラインと比較しながら、新ガイドラインの狙いである、我が国の平和・安全を確保するための協力を充実・強化すること、地域・グローバル及び宇宙・サイバー空間に関する同盟の協力の「拡がり」への対応、日米協力の「実効性」を確保すること等について具体的に説明し、最後に「我々としては、このガイドラインの下で、日本とアメリカの協力関係を更に高い次元に持っていき、そうすることで我が国の安全を確保して、それから地域の安全、安定を確保して、さらにグローバルな安全保障に寄与していきたい。ガイドラインは防衛省のホームページにも掲載しているので、是非一度、読んでいただきたい」と、締めくくりました。

北関東防衛局職員が空挺訓練を研修 ～習志野駐屯地～

3月2日（水）北関東防衛局は、陸上自衛隊第1空挺団（習志野駐屯地）において部隊研修を実施し、職員21名が参加しました。これは、防衛局職員に対し、部隊の実情を把握し識能の向上を図るとともに、体験的実習により職員に必要な使命感・規律心の醸成及び団結の強化に資することを目的として行われたものです。

職員は、習志野駐屯地の歴史、空挺団の編成・任務等について説明を受けた後、高さ11メートルからの跳出塔訓練に挑みました。跳出塔訓練では、教官の「報告！」の声に続いて各自が抱負などを叫んだ後、「降下！」の声に合わせて跳び出しました。午後からはバトラー装置（GPSとレーザー光線を利用した模擬戦闘訓練用装置）を使用した戦闘訓練を見学、最後に、隊員の教育や伝統の継承、部外に空挺団の活動を紹介する資料館「空挺館」で説明を受け、研修は終了しました。

職員の一人は「かなり怖かったが、実際に皆で訓練を体験し、部隊への理解、局職員としての一体感が深まった」と話していました。



「空挺館」は習志野駐屯地創立記念行事（桜まつり）や駐屯地夏祭り等で一般開放されています。
www.mod.go.jp/gsdf/1abnb/（第1空挺団HP）

第36回防衛問題セミナーのお知らせ

テーマ：新潟で国防を考える

～新潟地方協力本部創立60周年の節目に～

開催日：平成28年5月28日（土）

13：30～17：00（開場12：30）

場所：新潟テルサ多目的ホール（新潟市中央区鐘木185-18）定員約1,500名

講演：「我が国の安全保障」（13：40～）

公立大学法人熊本県立大学理事長 五百旗頭 真氏（前防衛大学校長）

音楽演奏：陸上自衛隊東部方面音楽隊（15：00～）

入場：無料（事前に配布する入場整理券が必要）

【入場整理券の配布】

日時：平成28年4月11日（月）から（配布完了次第締切）

場所：新潟テルサ

自衛隊新潟地方協力本部（新潟美咲合同庁舎1号館：1階自衛隊掲示板スペース）

自衛隊新潟地方協力本部 新潟募集案内所

陸上自衛隊新発田駐屯地白壁兵舎広報史料館

※都合により内容の一部が変更になる場合があります。

※入場整理券をお持ちでも、満員となり次第入場を締め切らせていただきます。

問い合わせ先：北関東防衛局企画部地方協力基盤整備課 TEL：048-600-1800（内線2707）

自衛隊新潟地方協力本部

TEL：025-285-0515

★「北関東防衛局広報」のバックナンバーは、北関東防衛局のホームページでご覧になれます。

www.mod.go.jp/rdb/n-kanto/kouhou/kouhou.html

北関東防衛局広報

検索